

『楽しい冬休みを』

校長 木村 明彦



辺り一面雪に覆われ、年末らしい景色となりました。今年は暖冬らしいのですが、時には、いつも以上に降る雪に、忙しい毎日をお過ごしのことと思います。また、家庭や仕事なども、新年の準備で、何かと気ぜわしい季節ですが、インフルエンザやコロナ感染症が猛威を振っています。健康に留意され、元気に新年を迎えられるよう願っています。

学校は、本日終業式を行い、長かった2学期を無事終了することができました。一回り成長した子どもたちを前に、「がんばったね」でも、「まだまだ、こんなもんじゃないよ」と話しました。今学期の成果を次の成長のステップとしてほしいと願っています。ご家庭でも、お子さんのさらなる成長に向けて、励ましの声かけをして頂ければと思います。

さて、明日から26日間の冬休みに入ります。クリスマスやお正月、子どもたちにとって、とても楽しみな事が続きます。私自身、子どもの頃、年末から正月にかけて、毎日ワクワクしながら生活をしていた記憶が、当時から50年を過ぎた今でも残っています。思い起こすと、懐かしいようでふんわりとした、不思議な感覚になります。普段は、破ると怒られる「障子」の張り替えですが、年末ばかりは、破り放題です。一通り破り終わると、弟と一緒に、父親の張り替え作業を手伝います。次は、「まゆ玉飾り」です。父親がどこからか持ってきた木の枝に、我先にと、飾り付けをしていきます。今でいう、クリスマスツリーのような感覚だったのでしょうか。それが終わると、今度は、神棚や玄関に、しめ縄やしめ飾りをつけます。これで、正月を迎える準備が整いました。最後は、家族全員で銭湯に行きます。銭湯で飲む牛乳瓶に入ったリンゴジュース、美味しかったですね。帰ってきてからは、年に一度のごちそうですから、楽しみで仕方がありません。そして、家族で同じテレビを見て、"なんてことない"時間を過ごし、いつの間にか寝てしまいます。そんな年末を毎年繰り返していたような気がします。今思い返すと、そばには、常に家族がいて、知らず知らずのうちに、大掃除の仕方や新年の迎え方を教わっていた事に気がつきます。家の風習や正月文化のようなものは、このようにして次の世代に引き継がれていくのでしょうか。一方で、現代は、衣・食・住等の基本的な生活や個々人の価値観や家庭の在り方も、時代の変化に合わせ、大きく変わり続けています。決して悪いことではないと思います。人に豊かさをもたらす新しい技術により生み出された物・事は、数知れません。一方で、失われていく物・事も、たくさんあります。では、失ってはいけないのに、失いかけているものはないのかと、ふと、心配になります。私自身、父親として自分の子どもたちに、温もりや安心感を与えられたのだろうか、と自問してしまいます。両親とも忙しい現代、大人にとっては苦難の時代ですが、それでも、子どもたちは、家族と過ごす、"なんてことない"、ありきたりの毎日に心地よさを感じたりするものです。「おはよう」「いってきます」「いただきます」等といった、家族と過ごす"なんてことない"日常は、なくしてはならない大切なことと思います。

始業式で、子どもたちから冬休みの楽しいお話が聞けることを、今から楽しみにしています。皆様にとっても良い新年となりますことを祈念しています。



本年度の重点目標

主体的に学ぶ力の育成を図る～意欲溢れる優しい子～